別紙様式１０

記載見本

修了評価の方法

　　　　　　　　　　　　　　　事業者番号

　　　　　　　　　　　　　　事業者名

　　　　　　　　　　　　　　　研修の課程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 確認・評価方法 | 理解度・合格基準 | 理解不足・不合格時の取扱い |
| ①各科目 | ◆出席簿により出欠を確認。  ◆担当講師がレポート等により理解度等を確認すること。  ＜通信課題＞  ◆担当講師が提出された課題の添削を行い，理解度を確認すること。 | ◆各科目の全ての実施時間に出席すること。  ◆研修計画の各科目の修了時の評価ポイント（「職務の理解」及び「振り返り」の実習においては介護職の働く現場や仕事内容に対する理解度）に達していること。  ＜通信課題＞  ◆研修計画の各科目の修了時の評価ポイントに達していること。 | ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。  ◆理解度が不足していると認められる場合は，指導・助言・補講等による補習を実施した後に，レポート等による再確認を行う。（ただし，「こころとからだのしくみと生活支援技術」については，科目試験により評価を行うため除く。）  ＜通信課題＞  ◆理解度が不足していると認められる場合は，指導・助言・補講等による補習を実施した後に，課題の再提出による再確認を行う。（ただし，「こころとからだのしくみと生活支援技術」については，科目試験により評価を行うため除く。） |
| ②科目試験  （こころとからだのしくみと生活支援技術） | ◆出席簿により出欠を確認。  ◆「こころとからだのしくみと生活支援技術」の講義・演習修了後，科目の時間内に実施。  ◆筆記及び口答試験については，担当講師が添削を行い，介護技術の習得度を評価する。  実技試験については，２時間以上実施し，実技試験評価担当講師が「評価マニュアル」にそって介護技術の習得度を評価する。 | ◆「こころとからだのしくみと生活支援技術」の講義・演習時間全てに出席していること。  ◆100点満点法により，70点以上を合格とする。（課題の総得点の7割以上） | ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。  ◆不合格の者に対しては，科目試験が，合格になるように指導・助言・補講等による補習を実施した後に，再試験を行う。 |
| ③修了試験 | ◆全科目の修了後に実施。  ◆筆記試験をおおむね1時間実施し，担当講師が評価を行う。 | ◆全科目修了後であること。  ◆100点満点法により，70点以上を合格とする。（課題の総得点の7割以上） | ◆不合格の者に対しては，修了試験が，合格になるように指導・助言・補講等による補習を実施した後に，再試験を行う。 |
| ④修了認定 | ◆上記①～③の確認・評価を元に課程編成責任者が総合的に判断して認定する。 | ◆上記①～③の理解度・合格基準を全て満たしていること。 |  |